

インマヌエル中目黒キリスト教会 2014年11月30日聖日礼拝

アドベント第一聖日に臨み

「すべての点で同じように」

ヘブル人への手紙 2章 9節-18節

竿代照夫牧師



聖書朗読

新約聖書

ヘブル人への手紙 2章 9節-18節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp390~/第三版の聖書はp425~

- 9 ただ、御使いよりも、しばらくの間、低くされた方であるイエスのことは見ています。イエスは、死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠をお受けになりました。その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものです。
- 10 神が多くの子たちを栄光に導くのに、彼らの救いの創始者を、多くの苦しみを通して全うされたということは、万物の存在の目的であり、また原因でもある方として、ふさわしいことであつたのです。

- 11 聖とする方も、聖とされる者たちも、すべて元は一つです。それで、主は彼らを兄弟と呼ぶことを恥としないで、こう言われます。
- 12 「わたしは御名を、わたしの兄弟たちに告げよう。教会の中で、わたしはあなたを賛美しよう。」
- 13 またさらに、「わたしは彼に信頼する。」またさらに、「見よ、わたしと、神がわたしに賜った子たちは。」と言われます。

- 14 そこで、子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、
- 15 一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放してくださるためでした。
- 16 主は御使いたちを助けるのではなく、確かに、アブラハムの子孫を助けてくださるのです。

17 そういうわけで、神のことについて、あわれみ深い、忠実な大祭司となるため、主はすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりませんでした。それは民の罪のために、なだめがなされるためなのです。

18 主は、ご自身が試みを受けて苦しまれたので、試みられている者たちを助けることがおできになるのです。

説教

アドベント第一聖日に臨み

「すべての点で同じように」

ヘブル人への手紙 2章 9節-18節

竿代照夫牧師



主テキスト

「神のことについて、あわれみ深い、忠実な大祭司となるため、主はすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりませんでした。それは民の罪のために、なだめがなされるためなのです。」

(ヘブル2：17)

A. ヘブル書に見る「受肉の目的」

1. 神の最終的啓示者となるため（1：1－3）

「神は、むかし先祖たちに、預言者たちを通して多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られました。この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。」

2. 苦難の救い主として完成されるため （2:9－10）

「イエスは、死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠をお受けになりました。・・・彼らの救いの創始者を、多くの苦しみを通して全うされた。」

3. 人と同じ血肉を持つ兄弟となるため

(2:14-18、5:8-10)

「子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。・・・神のことについて、あわれみ深い、忠実な大祭司となるため、主はすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりませんでした。それは民の罪のために、なだめがなされるためなのです。主は、ご自身が試みを受けて苦しまれたので、試みられている者たちを助けることがおできになるのです。」「キリストは御子であられるのに、お受けになった多くの苦しみによって従順を学び、・・・とこしえの救いを与える者となり」

4. 弱さが分かる大祭司となるために (4:15-5:2)

「私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでしたでしたが、すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。・・・彼は、自分自身も弱さを身にまとっているのです、無知な迷っている人々を思いやることができるのです。

5. 自分を生贄とするために (9:26、10:5)

「キリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。・・・キリストは、この世界に来て、こう言われるのです。

『あなたは、いけにえやささげ物を望まないで、わたしのために、からだを造ってくださいました。』」

6. 受肉によって得た人間理解を永遠に保つため（4：14－16）

「私たちのためには、もろもろの天を通られた偉大な大祭司である神の子イエスがおられるのです・・・私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした。すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」

B. 2：17の思い巡らし

1. キリストは、憐れみ深い大祭司

- 祭司とは：三種類の指導者
(王、預言者、祭司)の一つ。三職を兼ね備えて「油を注がれたもの」が「メシヤ」(クリストス)
- 憐れみ深い大祭司：人の弱さ、苦しみを代表して神の前に立つ

2. キリストは、全ての点で人間

- 人間としての誕生
- 人間としての成長
- 貧しさの憂い
- 人間としての喜び
- 人間としての苦しみ
- 人間としての死
- 纏めとして：私たちのすべての経験に、
主の足跡がある

3. なだめの供え物となる

- なだめの供え物となる
(ギヒラスコマイ) とは：契約の箱の
「贖いの蓋」(ヘカッポーレト) に、
血を振りかけることで人の罪を除き、
きよめるという行為
(イザヤ53：4)
- 完全な生贄によって、全くきよめられ
る(10：10、14)

おわりに

すべてを知り給う大祭司イエスに
呼ばわろう